

Number i

情熱が導く、さらなる高みへ

、バリ案内

（イタリヤ、ローマ）で今年2140周年、7人の女性との対話から浮かび上がるキーワードの数々が、
「アーティストとしての彼女たち」を語る窓口となる。アーティストとしての彼女たちへ想いを寄せる。

それが140年の時を経てなお、永遠に再生を続ける光の跡く存在するのである。

ローラの聲から始まる。まことに静く物語

夢を見る準備をして。詩人ケーテが「世界の歴史に泊めてみたいのです」と書いた言葉と並んで、ローマにまことに想像してみてほしい。この間の夜明けに近づき、新しい日は生まれる魔法のような瞬間。ローマ帝国時代から現在の大通りの石垣から霞が昇り、輝く輝く光で永遠の都市をみ込む。ローマの街の輝きと活性の作り手は、カエサルの記念碑、パラゴン様式の温泉、庭園の風景や隕石などを。これから始める物語の舞台は、既存の風景のよう光に浴びて輝く。それを構成する人物たち、ローマだ。そして語り手半井洋、背景、文化などをすべて

で異なるアーティストの女性。創造性、スタイルアイコンとなるような個性。勇気、自己一貫性といった絶対を併せ持つ、変化を恐れない非凡な女性たち。ルチア、サーキー、スージー、シモン、カイア、アワ、そしてエリザベス・タ。このインタビューは、1989年にソティリオ・ブルトリがスティーヴン・スピルバーグ監督の「インセプション」に最初の店舗導入に参画したことから始まった。ブルカリは、就業140周年を祝うために行われたものの、このメモ

の特別なアニバーサリーを祝う記念日に。アン・ハウェイ、ブライアン・カーナン、リウ・イーフェイ、森星らセレブリティが数え切れないほどAリストだったが出席する国際的なイベント「グローバル・アート・アンド・カルチャー・アワード」が開催された。ユニークな輝きを放つ新しいエテルナ・コレクションがお披露目された。

ローマに到着したモリシャ出身のソティリオは、彼自身の人生だけ

ページ、アンケートの回答シナリオを用意して「ハイエリッククレーン」のヤギリング、68.91カットのカゴボンカンクトのルベライトが最後のネックレス、中央にルベライトを配したソリューションした、トップモデルのエリザベス・テレンス。左ページ、マジン140周年を記念した、7つのダイヤモンドドロップが繋ぐ合計140カットの「セルバンティス・エリザベス」ネックレス。

でなく、ジュエリーの世界も永遠に愛する転換を迎えた。創造に次ぐ創造を重ねて年々進化するメゾンを生み出し、以来ずっと、過去を再現する以上の存在であることを目指している。声明された「永遠に再生される」という言葉通り、この記念日はブルガリにとって、メゾンが新たなる視点で見えて、未来について考える機会となっている。

7人の女性たちが語るそれぞれの永遠

ム(宝石)バイブルは、貴重な宝石や色彩と動かすことの好きな。進んで似合う。そして不可能だと思われるようナックレスを想像する」と言う。彼女の作品はこの記念日でのオマージュで、一粒のダイヤモンドの原石から、カランスピーションを得て、永遠のシンボルとして誕生した光の琴。D7コースの経走距離140カラットにこよぶサルベティエテルナ」という夢のような名前が付けられたネックレスだ。

宝石を扱うことは彼女がキャラ受けた最も重要な女性が働くのはいつも私を導いてくれる晴らしいエネルギー



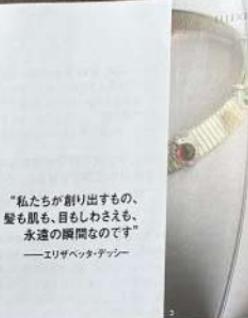
宝石を手に取ったことは、永遠を握るということでもある。このことは彼女がキリスト教の聖職者として活動する以前、ブルガリアのミラーから受けた最も重要な教えだったかもしれません。「男性の力を持つ環境で女性が働くのは簡単なことです」とは言いませんでした。そんななかでいつも私を導いてくれるのは、仕事への情熱と宝石と私を結びつける素晴らしいエネルギーでした。

A MORNING IN ROME

ローマの朝の光を浴びて
MAKIKO WATANABE

「私たちが創り出すもの、
聲も肌も、目もしさえも、
永遠の瞬間なのです」

—エリザベッタ・デッシャー



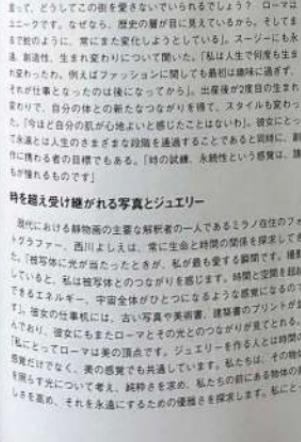
ルチアが新宿テラスシティ川を下り下る森のアトリエのバルコニーから太陽の光を浴びて輝くルビーやエメラルドを眺めている。太陽の光の下で彼女を分析し、鑑定することの範囲はついであります。太陽の光を知っていることは、誰もが知っていることではないだろう。太陽の光度を測めるのにローマの光と日本では同じ理由で、太陽へ向かって立たなければ、レッドカバード、パーカー、ロサルのエディングなど、女性たちにとって最も特別な瞬間でもブルガリのジュエリーは輝きを放っている。

新しい視点、再生、創造がもたらす、時間との対話

ブルガリは、次回インスタイルーションを通じてローマの街にエネルギーを運んだ。オランダのデザイナーでアーティストのサビニ・フルセスによって創られたこのインスタイルーションは、永遠の歌とブルガリとの特別な絆の誕生日といえる。空間を再創造する作品で知られるサビニ・フルセスは、彼は以前モラガラのカラフルなサンプルに魅せられたアーティストだ。「私の仕事は、あるものを変化し、次回で見つける。再創造することです。私のデザイナーとしてのゴルル・オブジクが時代を読んで在りたまるように、完璧を目指すことあります」と、ブルガリと自身の作品に共通する点を説明する。この共の理念は、ローマの古田色合いで飾られた鏡のインストレーションにも表れている。鏡のうえに、ローマの社会とその美しさを愛で人々を映し出し、歴ごとに永遠の歌の異なる側面と向き直る対話をめぐらす。新しい鏡がありがあるたびに、終わりがないようを感じています】

イギリスのショーフィールドでファッション・プロダクション・ラウス、スージーハーバルといふペナンヌームで有名な女性だ。私は彼女と共に愛してやまないローマの姿で彼女に会った。「正直に

アントニオ・カルミネス・ディ・カーラーノア・シルバニア・ブルグホフは100巻を記念した「セレベント・エディション」コレクションを発表。スマートな黒と白の組み合わせの基調をキープしながら、ブルガリの良さと色の組み合わせの良さを引き出すハンドメイドのネックレス。ブルガリの特徴的な「ブルガリ・リンク」のアーチ型フレームは、4本のサナード・エーディションのサビニ・フルセスは、「ブルガリ・トマスガス」のパラダイスモードであらわしたブルガリ・ヨロコビ・ローマのイヤリングと胸元につけて。ローマの街に残り生徒の先生遊びで、少しモチヤンションの上に隠して、みんな驚かせよう♪



SABINE MARCUS
サビニ・フルセス/
デザイナー、アーティスト

言って、どうしてこの曲を愛さないでいるらしく？ ローマはユニークです。なぜなら、歴史の層が音に見えてるから。そして今までのように、常にまた変化しようとしている。」スージーによる言葉は、生まれ変わりについて聞いた。「私は人で何でも生まれ変わったわ。例えばファッションに関しては既に隕石で消えただけで、それがまた新たなつながりを得て。スタイルも変わった。今ほど自分の肌と心地よい感じはないことはないわ。彼女に之って永遠とは人生のさまざまな段階と通過することであると同時に、創作性だとも。人生の目標でもある。『時の試験、永続性という感覚は、誰もが憧れるものです』

時を超えて受け継がれる写真とジュエリー

現在における解説者の主要な解説者の一人であるミラノ在住のフォトグラファー、西川よしえは、常に命と時間の関係を探求してきた。「被写体とのつながりを感じます。私が最も愛する論題です。撮影していると、私は被写体とのつながりを感じます。時間と空間を超えてつながります。宇宙全体がひとつになるような感覚になるのです」。彼女の仕事机には、古い写真や美術書、建築家のプリントが並んでおり、彼女にもまたローマとその他のつながりが見えてくる。彼女の「私にとってローマは美的頂点です。ジュエリーを作る人は時は時間だけでなく、美の感覚でも共通しています。私たちは、その感覚を育んで光について考え、純潔さを求めて、私たちの胸にある物の美しさを重んじ、それを永遠にするための便服を探索します。私にどう



SUSANNA LAD
スザンナ・ラド
スザンナ・ラド
スザンナ・ラド



卷之三



LA KENNEDY
ラ・ケネディ
ジョンテザイラー

「写真は時間を持続する唯一の道具。写真は永遠を可能にします」
ジュエリーと写真。この2つは永遠の結晶であるだけではなく、世代
を超えて受け継がれるという両者の運命も持っている。「そうして彼
らは別的人生を送り、生まれ変わる」。これはカイラ・ケネディの言
葉であり、トルーマン・カガペーにも同じです。

“異なる世代や文化を持つ女性たちの間で、自分たちを光の中に存在させるという考えを分かち合うことは、特別なことです”

—アヤ・モハメト

【スワン(白鳥)】 カイウは漢書や伝記といった古文書の知識を学ぶためにタケチーが教えた。タケチーは彼の心に想い出のためにタイラニに住むし、ファンシーンを学び、現在は自分のアーティスティックな才能を發揮している。「自分の骨肉を通して想をくらえ、人間にはスピリチュアル性を与えるようならうまいな」といふ。『スリーピー』を身に着けることによって精神を持った物だといつて。『アリガト』は、アドモアたちアーティストが音楽で向かうことによって気づいた、その声や歌に反応してこれまでにない、誰も歌に慣れていないときにタイラニから学んだことは、永遠はこの声を失った後も経験続けるものだということ。愛と喜びで満ちて震がる「めがね」のです!と言ふ。どのように生きるか、永遠で生きる問題に立ち

「エジプトでは、古と今の間でジュエリーを贈る伝統があります」と語るのは、社会変革推進者でファッション愛好家でもあるアゼ。ソハメド。彼女のルーツがある文化とハイブリッドとしての側面を表しているので、アゼは通称マイラン・ビラミッドと呼ばれている。「宝石は身に着ける人々を輝かせます。そして贈る世代文化を持つ女性たち



AYA MOHAMED
アヤ・モハメド

自然、私たち自身の中に存在するという考え方を自分たちの「特別なこと」、「私たちは彼らに自分自身の尊厳を譲ることなく生きたいのです」。私は文化の無縫隙として自分自身を定義しています。人々を愛する、お互いをつなげつけたりしない限りは、この世界は成り立たないのです。そして現在、社会が個人的、職業的な大きな資本を失いつつあるときに、精神的な問題が現れることがあります。精神的な変化をもたらす可能性について考えさせられます。「心の渦とは、愛と優しさと嘆息と悲しみとです」と。モデルイギエーナ・バーダー・ディザインの言うところに、真のスタイルと心の渦は表裏のもので、人生で何回も生まれ変わりを経験した。オリンピック選手であり、2度のモデル大統領が彼女に、図書、音楽、アート、そして「食卓文化」でもあります。いま、66歳となったディザイナーである。人生の大半をヨーロッパ過ごし、66歳になったディザイナーは、プロのモチベーションとして新たな再生の輪を中心とした中で、両親の死後、娘の死後、女性が重なることをそれはほど重視できないと証明していることを目標にしている。「そしてそれは終わりではありません。永い間私たちのどちらかに行き、生きる心にあります。私たちが割り切らなければ、髪も肌も、もしわえも、永遠の闇闇になります」。